

# 広島修道大学の教員養成の理念

広島修道大学（以下、本学と略記）は、その淵源を浅野藩の講学所に発し、中国の古典『中庸』の「道を修める」を建学の精神に、「地域社会の発展に貢献できる人材の養成」、「地域社会と連携した人づくり」、「地域社会に開かれた大学づくり」を理念に掲げ、その実現のために、「地球的視野を持つ人材の養成」、「個性的、自律的な人間の育成」を全学の教育目標としている（本学学則第1章第1条）。本学の教員養成に対する理念は、この規定に基づき、以下の4点に集約される。

## 1) 生涯にわたって研究と修養に励むことのできる個性的・自律的な教育者の養成

本学の「道を修める」という建学の精神は、中国の古典、四書五経のひとつ『中庸』の「天命之謂性 率性之謂道 修道之謂教」（天の命ずるこれを性といい、性に率うこれを道といい、道を修めるこれを教えという）に由来する。これは「すべての人間には天性がある。その天性を伸ばすのが人間の道である。そしてこの道をしっかりとしたものに整えるのが教育である」という意味に解釈される。ここでいう天性を伸ばすとは、いうまでもなく他者や周囲の環境との共生を実現する意味を含み、ここでいう道とは、大学での修学を越えた人生全体を指す。この趣旨を踏まえて、本学は、生涯にわたって研究と修養に励むことのできる個性的・自律的な教育者の養成をめざす。

## 2) 地域社会発展の基礎である教育に貢献できる人材の育成

教育は社会発展の礎である。本学教職課程を修了した多くの卒業生は、学校教育にとどまらず、公民館等の社会教育分野、そして家庭や職場において、教育的役割を果たしてきた。こうした経緯を踏まえ、本学は、私立総合大学としての強みを活かし、幅広い知識と技能の修得をとおして、家庭・学校・地域の相互の関連を多面的に理解し、教育実践に主体的にとりくむことのできる人材の育成をめざす。

## 3) 地域社会のニーズや変化に応答する教員養成教育の展開

本学は、地域社会の要請に基づいて開学され、地域密着型の大学として、地域社会とともに発展してきた。広島県においては、平成26年に策定された「広島版『学びの変革』アクション・プラン」による教育の改革が進んでいる。令和2年度には、教育の基本的な方針を示す新たな「広島県教育に関する大綱」が策定された。この取組では、多様な学習機会と場の提供等を通じた「個別最適な学び」やデジタル機器等の効果的な活用を含めた「主体的な学び」を促す教育活動の充実が目指されている。

また、広島市においては、「広島市教育大綱」のなかで、「地域共生社会」と「国際平和文化都市」の具現化を図ることが示され、夢や希望に向かって挑戦する心構えとそれを継続する力を身に付けさせるとともに、これからの都市づくりを担う人材として、地域への誇りと愛着を持ち、多様な人々と主体的・積極的に協働できる社会性を身に付けさせるための教育が目指されている。

本学は、広島県・広島市をはじめとした教育を取り巻く地域社会のニーズや変化を理解し、学生自ら主体性をもって多様な人々と協力して価値を創造するとともに、課題解決への取組を通して、学びあう態度を養うことができるよう教員養成教育を展開していく。

## 4) 教育の研究及び実践に関わる地域社会との交流

本学は、地域密着型大学として、教員養成に関しても、地域社会との密接な交流を図っていく。本学は、地域と大学との往還をとおした教員養成をさらに充実させていく。